

理学部・理学研究科

I	研究水準	研究 5-2
II	質の向上度	研究 5-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況については、平成16年度以降の査読付き論文が3,918件に達し、教員一人当たり、年平均3.8件となる。研究資金の獲得状況については、科学研究費補助金の採択数が年平均363件、採択金額は年平均17.5億円に達している。科学技術振興調整費等の競争的政府資金は年平均40件近くが採択・継続されており、4年間の総額は28億円を超える。21世紀COEプログラムについては、研究科を構成する全専攻が採択され、また、グローバルCOEプログラムについては、2専攻が採択されるなど、活発な研究活動が展開されていることなどは、優れた成果である。

以上の点について、理学部・理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、理学部・理学研究科が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を大きく上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、数学・数理解析、物理学・宇宙物理学、地球惑星科学、化学、生物科学のそれぞれの分野で国際的にも高い評価の研究成果を収めている。また、学士院恩賜賞、紫綬褒章をはじめ、4年間で36件の受賞もある。社会、経済、文化面では非天然型アミノ酸の大量合成を実現したキラル相関移動触媒の開発で大きな社会的波及効果をもたらした。これらの状況などは、優れた成果である。

特に、近年の大型実験設備の導入が困難な予算状況にもかかわらず、世界最高性能のX線検出器の開発によりX線天文学で世界をリードするなど、理学の多方面で顕著な業績を上げていることは特筆すべき状況にあるという点で「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

以上の点について、理学部・理学研究科の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、理学部・理学研究科が想定している関係者の「期待される水準を大きく上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は5件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。